

親子の関係(60)

●「学習習慣を身につけ、学ぶことに価値をおけるようになること」が望ましいが、それだけでは中学生、高校生としての生活すらもうまくいかない。そもそも、学習習慣を身につけ学ぶことに価値をおいていると周りからは思われていた生徒が、難関中学・高校・大学に合格したあと、意欲をなくしてドロップアウトしてしまうことだってひんばんにあるのだ。「学ぶことへの価値」そのものも、年齢や状況によって深化しないといけないのだ。その深化のためにも、また、友人関係の維持、将来の方向性の模索、更なる目標の設定など、様々な場面で、「別の頭のよさ」は必要となるのだ。そこで、考察。

●① **空気が読めない人** その場にふさわしい行動ができない人といってもよい。受験生が真剣に自習している部屋で私語をする生徒、授業中に気分を前面に出す生徒など空気が読めない人間の典型である。これは、そのままにはいけないので、本人の「タフさ」の度合いを考慮しながら気付け、直してやらねばならない。



そういう「空気の読めない生徒」に、気の強い友人でもなかなか忠告はしてくれないもので、結果、周囲の人から無意識の疎外を受けたりする。(もともと、最近では、中学校の保護者参観でも、親自身がおしゃべりをしてるのが目立つよう、読めないのが普通になりつつあるのかもしれない。) まだまだある。講師が忙しい時間なのにそれが感知できなくて、時間のかかる質問をもつて来てすぐに答えるよう要求する。こういう人はたいいていその場で対応できないと不機嫌な顔をする。「あんな高校、誰だつてうかるよ。」とか「〇〇大学に行く奴の気が知れない。」などと大声でいう。今、同じ教室にそこを第一志望にしている生徒がいるんだよ。

●② **気転がきかない人** 気がきかない人といってもよい。例えば、生徒面談でこんなことがよくある。「〇月〇日〇時に」と、当方との約束をする。で、来ない。約束の間を大きく過ぎてから顔を出して「今日は授業があるので、教室に早目に入って自習していました。何で、呼びに来てくれなかったんですか？」とおっしゃる。絶句。台風接近でその日の授業中止の連絡を電話で一斉に入れる。一通り連絡がおわって、突然現れた生徒。「質問はできるんですよ。いっぱいあるんです。」絶句。きつと、今までも生活のいろんな場面でこんなことをくり返しているはず。何とかしてやらねば...

り返しているはず。何とかしてやらねば... (以下次号) (小林)

身近な化学

皆さんは「タンングステン」



と聞くと、何を思い出すだろうか。おそらく電球のフィラメントを思い出す人が多いだろう。では「ネオン」というと。おそらく夜の街に輝くネオンサインを思い出すと思う。これらは全て化学物質のことである。聞いたことのない物質も聞いたことのある物質も意外と身近なところに存在しているのである。今回はその一部を紹介しよう。

皆さんの馴染みのない物質で身近に大量にあるものは何だろう。それは「ケイ素」である。ケイ素は化合物として岩石などに大量に含まれる。その量なんと四分の一。また家の中にも大量に存在する。それは電化製品の中。LSIと呼ばれる半導体部品、通称「ゲジゲジ」である。自然界に存在するケイ素の化合物を精製して純粋なケイ素にし、それをさらに加工したものである。実は電化製品の中には様々な物質が使用されている。他の例をあげると、カレーで有名になった猛毒である「ヒ素」、同じく猛毒である「リン」も使用されている。ただしリンは人体にも必要不可欠である。人体のエネルギー源であるATPと呼ばれる物質を聞いたことがある人も多いと思うが、これはアデノシン三リン酸と呼ばれるリンの化合物である。純粋な物質と化合物では、性質が全く異なるのである。さて、ケイ素

であるが、別の呼び方は皆さんご存知だと思ふ。そして弾力のある物質を思い浮かべるのではないかと思ふ。そして弾力の必要なものといえば。なんとソフトコンタクトレンズにも使用されているのである。不思議な物質である。

「チタン」という物質を聞いたことがあるだろうか。以前はゴルフのクラブで使用されていたような気もするが、もっと身近なところに使用されている。チタンは光が当たると汚れを分解する性質、水をはじきにくくする性質を持つ。つまり水があり、汚れが目立つ場所に使用されている。そう、トイレの床である。また永久磁石は一体何だろうか。磁石とは言うが、決して物質名では呼ばれない。実は多くの永久磁石が「サマリウム」、「ネオジム」と呼ばれる物質である。一体何が違うのか。それは「ネオジウム」のほうがさびやすいのである。

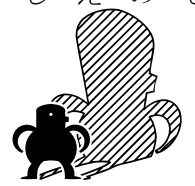
ざっと紹介したがこれらはまだほんの一部である。調べてみると結構面白いものである。では最後に一つ。ヘリウムである。風船の中に入っている空気より軽い物質である。学生のととき大学際で使用されるヘリウムガスを吸ったときのこと。声が「ブラックデビル」(注: 明石家さんまが演じたキャラクター) になった瞬間であった。(岡本)

親の影

もしかすると、これからお話しすることはごく普通のことなのかもしれません。目



に見えるものでもなく、病気として現れているわけでもありません。しかし、親の発言や行動、心の動きが、子供の生き方や考え方に、影を落とします。そして、その子供は無意識のうち



に親と同じような言動をとるようになってしまいます。その影が、子供の人生にプラスにはたらけばよいのですが、マイナスにはたらき、人間関係や社会生活に支障をきたしてしまふことがあります。その子どもは、周りの人を見ると、普通に生活しているように見えるのですが、本人はもがき、苦しんでいます。そのような人は少なからずいるのではないのでしょうか。

ある男の人がいました。ごく普通の人間です。普段はごく普通に生活を送っています。しかし何か不都合なことが起こると、すぐに怒りの表情をあらわにしてしまいます。怒るのは仕方がないにしても、普通の大人なら、そのことについて他者に意見を聞くとか、理由を考えそれを解決しようとか、何らかの形で処理しようとするのですが、彼はそうしません。ただ怒りの表情をあらわにして、周囲の人を威圧しようします。本人はそうしていると気づいていません。しかし周囲の人は不快になり、その人とはあたりさわりのない態度をとるようになっていました。

ある日そのことを友人から指摘されました。しかし本人は何のことかわかっていません。なんども指摘されますが、しばらく

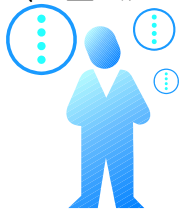
の間はわかりませんでした。しかしあるところがきっかけでだんだんと自分が普段どういふ態度で人に接しているかがわかるようになってきました。それからというもの、彼は、なぜ自分はそのような言動をしてしまふのかを考え始めました。少しずつわかり始めました。そして少しずつですが、自己理解を深めていきました。どのようにして自己理解を深めていったのかはいろいろあったようですが、自己理解が進んだ一つのきっかけは父親の姿だったそうです。

あるとき、彼は長期の休みを利用して、両親の所へ帰りました。実は、親を憎んでいました。ですから親と会うのがいやで、何年も帰らなかつたことがありました。ところがあるセミナーがきっかけとなり、親に対する憎しみは薄れていき、今では感謝の気持ちもてるようになっていたのですが、やはり親に会うのはそれなりにきつさもあつたようです。

さて、彼は家に帰って、家族でお互いの日常などを話しながら過ごしていたのですが、何かのきっかけで突然父親が黙り込みました。どうしたのかと思い、父親の顔を見ました。そのときの表情、鬼か、般若か、いやなんと表現したらよいのか、とにかくすごい怒りの表情でした。そして何の言葉も言わずただその家族をにらんでいるのです。そのとき彼は見たのです。父親の姿の中に自分の姿を。その後、落ち着いて考えてみたところ、自分の姿とは少し違っていたようですが、そのような表情をすること

で周囲を威圧によって動かそうとするところが同じだったのです。本人は、かつてはあれだけ父親を憎み、あんな人間には絶対にならないぞと思っていたにもかかわらず、ふたをあげたら同じようになっていたことに気づきました。本人はそうとうショックだったようで、その日のことは忘れないといっていました。(その出来事の中では他にも思い知らされることがあつたようです。)

うまく表現できなかったかはわかりませんが、親の他者との接し方、それが子供のほうに無意識のうちに入り込んでしまったようです。そしてそのことに本人も気づいていなかったところには何かがあるのでしよう。(他にも要因はあると思いますが)



ますが、人と人との距離が近くなればなるほど、お互いに影響しあうことが多くなります。大人と子供であれば大人の影響が大きくなります。我々大人はそのことを意識して接することができたらと思います。ちなみにその男の人は、以前なら自分がこうなつたことを父親のせいにして、自分には責任がないと思つていたのですが、今では父親も苦しんでいるのではないだろうかと思えるようになり、以前より父親のことを理解できるようになつたといっていました。そして今の歳になつて、親の責任だといつてどうするのか。自分はそのような人との接し方はしないといふことを選択できたはずだ。誰の責任でもない。自分が悪いのだといっていました。まだまだ人間関係でうまくいかないことがあるようです。また、その人は他にも問題を抱えていて、まだまだこれからとも言っていました。

『親の影』と題しましたが、『大人の影』といつてもいいと思います。それは大きくそして重いのもかもしれません。それに大人のほうもいつもそのことを意識しているということは難しいことです。ただ何かのときに我々大人は反省する機会を持ちたいものです。(長谷川)

☆今号では教育名言紹介はお休みです。

創学舎の本

★受験生は読め！(合格のヒケツがココにある)

●勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。

●非売品です。希望者には無料で差し上げます。

★愛の壁 — お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

●創学舎ニュースの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

●浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。

☆卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。